
敦賀発電所2号炉
ボーリング柱状図の記事欄に係るご指摘への回答
補足説明資料3
柱状図の記載項目の比較例

令和2年9月24日
日本原子力発電株式会社

余白

■コア全体 (1/3)

- 人工堆積物の構成粒子など
(例)H24-D1-2

委託報告書
(平成25年)

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	割れ目	風化	変質	記	コア採取率
(m)	(m)	(m)	図	区分		状態	形状	状態	化質	事	→ (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]
		1.05		盛土	黒					0.00~6.81m : 盛土 0.00~0.31m : 砂土 新種は細粒砂岩、泥岩、最大径30mm。 0.31~2.84m : 砂土 最大径2~10mmの細粒主体で、径60mmまでの角礫を含む。礫種は花崗閃岩、アブライト主体でまれに黒色の頁岩を含む。基質は細砂主体で不均質。粗粒分はごく少量で細かい。 2.84~6.81m : シルト質砂礫 最大径160mmまでの花崗閃岩礫主体で、アブライトもみられる。シルト分を含み、上位層に比べてやや締まりが良い。 3.30~3.45m : 泥岩礫が混じる。 4.35m : 木片あり、20×50mm。	0 50 100
		6.81		花崗閃岩	灰白					6.81~33.00m : 花崗閃岩 (Gp) 6.81~10.58m : 傾斜40~60と微細な割れ目主体。斜交する40~60の割れ目も分布する。割れ目沿いの砂状化や、粘土の塊状がみられる。 8.56m割れ目層様厚2~3mmが淡褐色化し、微細な強母が混入する。	0 50 100
		11.53		土砂	土砂					11.53~11.95m : 土砂~岩片状。	0 50 100

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事
0.00~6.81m ・盛土である。
6.81~33.00m ・花崗閃岩である。



- 岩脈・鉱物脈
(例)H19-No.2

委託報告書
(平成19年)

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	割れ目	風化	変質	記	コア採取率
(m)	(m)	(m)	図	区分		状態	形状	状態	化質	事	→ (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]
		120		花崗閃岩	灰白					花崗閃岩 上位との境界漸移的。 深度122.30~123.70m : 花崗閃岩。 径3~5mmの石英、長石及び径0.5~2mmの重晶石の斑晶を10~40%程度含み、石質は径0.1~0.2mm程度。 深度118.20m付近には、傾4cm傾斜約40度の微細なアブライト脈を挟む。アブライト、上位との境界漸移的。	0 50 100

設置許可申請書
(平成27年11月)

記事
118.78~120.00m ・変質を受け、岩質が脆くなっている。
122.30~123.70m ・花崗閃岩である。 ・上端境界は漸移的である。 123.70~136.65m ・アブライトである。 ・上端境界は漸移的である。 125.00~125.47m ・変質を受け、岩質が脆くなっている。



補足3-3

■コア全体 (2/3)

- 流理構造 (鉬物の晶出)
(例)H19-No.14

委託報告書 (平成19年)

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	コア	割れ目の状態	風化	変質	記	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D ↳ [%]
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	状	態	化	質	事	
	-14.06	16.40	[図]		灰明黄緑	Bg	IIg				2	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D ↳ [%]
					明黄緑	Dg	IVz					
					褐灰	Vz	cg					
						Bg	IIIg					
							IVz					
							IIIg					
							IIg					
					灰黄緑	Cg	IIg					

2 アプライト、上位との境界傾斜50度。
深度116.40~140.40m: アプライト。
石蓋は径0.1mm程度であり、斑晶は非常に少ない。
深度116.70~117.00、118.00~118.15m: 黄褐色の斑晶が傾斜40度の流理に沿って見られる。
深度117.15~121.25m: 節理面に沿って褐色を帯びる。

設置許可申請書 (平成27年11月)

記	事
111.25~112.45m	・斑晶が少ない。
114.58~115.00m	・高角度の割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 ・割れ目面に薄い粘土を挟む。
116.40~140.40m	・アプライトである。 ・上端境界の傾斜は50°である。



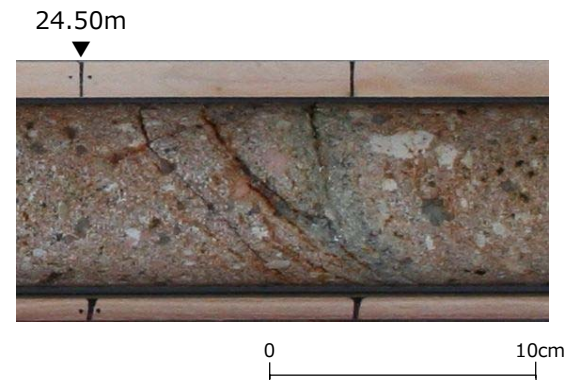
- 割れ目沿いの変色や鉬物の晶出
(例)H24-D1-4

委託報告書 (平成25年)

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	コア	割れ目の状態	風化	変質	記	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D ↳ [%]
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	状	態	化	質	事	
			[図]		明黄緑	Dg	IVz				24.59m、25.10m、25.61m: 割れ目沿いに径10~20mmが淡緑色 化し、0.5~1mmの斑晶を伴う。	
						Vz	cg				26.76~27.75m: 微細な割れ目が1 ~3cm間隔で分布し、ハンマー打撃 で細片化する。	
						Bg	IIIg				●27.75~28.43m: 破砕帯 27.75~27.91m: 隙間粘土状破砕部 (H)。上端20°で直線的。下端15°で 直線的。径10mmまでの石英粒。粘土 化した岩片を多く含む。 27.91~28.33m: 粘土滲り輝状破砕部 (H)。下端53°で直線的。岩片間 に傾斜に粘土が分布。 28.33m: 粘土状破砕部(Hc-1)。傾 斜53°。幅2~5mm。灰褐色。 28.33~28.43m: 隙間粘土状破砕部 (H)。下端60°で直線的。幅60mm。 29.73~30.20m: 硬質で良好な岩盤 となる。	

設置許可申請書 (平成27年11月)

記	事
23.40~23.77m	・割れ目が多く、角礫状を呈する。
●27.75~28.43m	・破砕部である。 ・石ずれ正断層センスである。 ・明褐灰~灰白~明赤灰色の隙間粘土状 ~粘土混じり礫状を呈する。 ・灰黄褐色粘土: 累計厚5mm ・走向・傾斜はN6° E83° Wである。



■コア全体 (3/3)

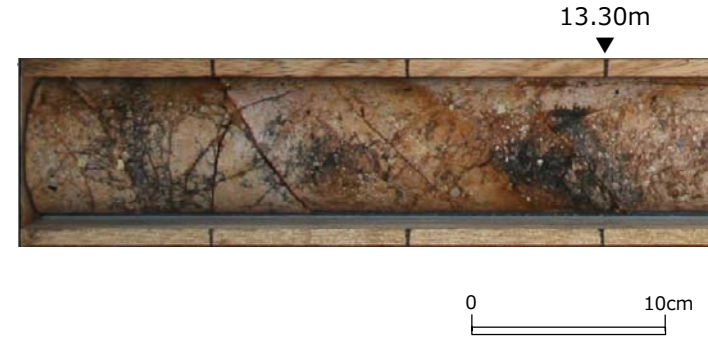
● 酸化マンガン (例)H20-①-9

委託報告書
(平成20年)

標尺	標高	深	柱状	岩種	色調	硬軟	割れ目	風化	変質	記	コア採取率
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	目	状	化	事	→ (%)
							形	態	質		最大コア長
							状	化			cm
							状	質			R Q D
							状				〔%〕
		19.48	13.75	+	浅黄橙	IVg	δ	3		12.35~73.25m 節理に沿って褐色化を呈することが多い。 <u>13.00~13.20m 局所的にマンガンを高集中度</u>	0 50 100
		19.03	14.37	+	アプライト	IVg	β	2		13.70~16.40m コアは硬質~やや硬質で、ハンマーで金属音~にふい金属音を発する。 13.75~17.73m アプライト。 14.37~14.55m 周辺に比べて斑晶の粒径が大きく、含有量も多い花崗斑岩を挟む。上位のアプライトとは幅5~8mm程度の石英脈で挟まれる。 16.40~20.90m コアはやや軟質~やや硬質で、ハンマーで金属音~にふい金属音を発する。 17.19m シーム、傾斜70°、幅0.2cm程度の褐色粘土からなる。周辺は同系統の節理が発達している。 17.73~20.44m 花崗斑岩。 20.44~20.90m 径1~2mm程度の石英、長石、径3mm以下の黒雲母の斑晶を10~20%程度含む。上位のアプライトとの境界は漸移的である。	
		18.90	14.55	+	アプライト	IVg	β	2			
		16.62	17.73	+	にがい橙	IVg	δ	3			

設置許可申請書
(平成27年11月)

記	事
11.19~11.39m	・変質し、軟質化している。 ・上盤境界の傾斜は63°、下盤境界の傾斜は68°である。
13.70~14.91m	・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。
13.75~17.73m	・アプライトである。 ・上盤境界に、幅10~15mm程度の石英脈を挟む。
14.37~14.55m	・花崗斑岩である。 ・上盤境界に、幅5~8mm程度の石英脈を挟む。
14.55~17.73m	・アプライトである。
17.73~34.60m	・花崗斑岩である。 ・上盤境界は漸移的である。



● 節理のずれ (例)H19-No.12

委託報告書
(平成19年)

標尺	標高	深	柱状	岩種	色調	硬軟	割れ目	風化	変質	記	コア採取率
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	目	状	化	事	→ (%)
							形	態	質		最大コア長
							状	化			cm
							状	質			R Q D
							状				〔%〕
	90		+	アプライト	にがい橙	IVg	β	1		深度90.45~90.66m: 破砕帯(H)。上盤40度、下盤66度。節理密集し、節理に沿って砂~シルトを挟む。 深度91.66~94.58m: 節理少なく新鮮な柱状コア。節理に沿って濃緑色シルト~砂を挟む。 深度94.58~96.25m: やや節理多くなり、褐色化顯著。 深度96.15m: 96.10~96.18mに強く傾斜68~80度の節理が厚さ12cm近断層状にずれる。	0 50 100
				アプライト	灰白	IVg	β	1			
				アプライト	明褐色	IVg	β	1			
				アプライト	褐色	IVg	β	1			

設置許可申請書
(平成27年11月)

記	事
● 90.45~90.66m	・破砕部である。 ・砂~シルトを挟む割れ目が密集する。 ・走向・傾斜はN8°E71°Wである。 ・上盤境界の傾斜は40°、下盤境界の傾斜は66°である。
91.66~94.58m	・硬質・新鮮である。 ・割れ目が少なく、長柱状を呈する。 ・割れ目に沿って、シルト~砂を挟む。
99.60~137.50m	・花崗斑岩である。 ・上盤境界、下盤境界は不明瞭である。



補足3-5

■ 破碎部

- 境界の直線性・明瞭さ、見かけの傾斜
(例)H24-D1-5

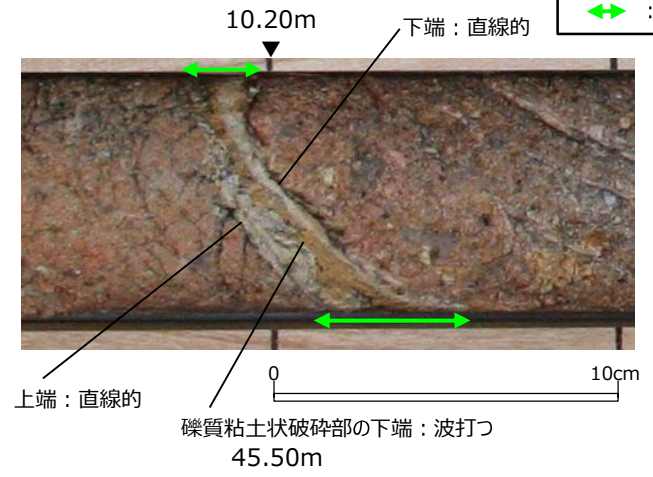
委託報告書
(平成25年)

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記	コ
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	形	状	化	事	ア
										●10.19~10.21m: 破砕帯 10.19~10.20m: 礫質粘土状破砕部 (H) 上盤27°で直線的、下盤26°で波打つ、幅4~12mm。 10.20~10.21m: 粘土状破砕部 (H-1) 下盤40°で直線的、幅4~6mm、灰白~にふい黄色。	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D 〓 [%]

設置許可申請書
(平成27年11月)

記	事
●10.19~10.21m	・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 ・灰白色の粘土状~礫質粘土状を呈する。 ・にふい黄~灰白色粘土: 累計厚6mm ・走向・傾斜はN12° E78° Wである。

凡例
↔ : 破碎部



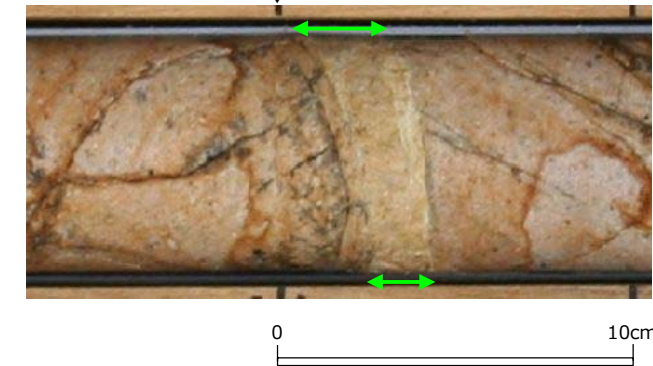
- 原岩組織の有無
(例)H20-①-9

委託報告書
(平成20年)

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記	コ
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	形	状	化	事	ア
										45.52~45.54m: 破砕帯 (H) 上盤18°下盤10°、幅2cm程度、原岩組織が認められるが、灰白色粘土を伴う。周辺の節理を切っている。	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D 〓 [%]

設置許可申請書
(平成27年11月)

記	事
●45.52~45.54m	・破砕部である。 ・灰白色の粘土混じり礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN42° W59° Wである。 ・上盤境界の傾斜は18°、下盤境界の傾斜は10°である。



- 硬軟、見かけの変位センス
(例)H19-No.2

委託報告書
(平成19年)

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記	コ
(m)	(m)	(m)	図	分	調	軟	形	状	化	事	ア
				花崗斑岩	灰白					深度186.53~186.54m: 破砕帯 (H) 上盤40度、下盤40度、幅7~13mm、明褐色礫混じりシルト状、正断層のセンス、軟質。 深度186.54~186.58m: 破砕帯 (H) 上盤40度、下盤47度、幅25~40mm、明褐色シルト混じり砂・礫状。	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D 〓 [%]

設置許可申請書
(平成27年11月)

記	事
●186.53~186.58m	・破砕部である。 ・明褐色礫混じりシルト状~明褐色シルト混じり礫状を呈する。 ・明褐色礫混じりシルト: 累計厚13mm ・走向・傾斜はN15° E61° Wである。 ・上盤境界の傾斜は46°、下盤境界の傾斜は47°である。 ・正断層センスを示す。

